

情報リテラシーにおける生成 AI の扱い

安田伸一*1・米満潔*2

Email: yasudas@cc.saga-u.ac.jp

*1: 佐賀大学経済学部経営学科

*2: 佐賀大学全学教育機構

◎Key Words 情報リテラシー, アクティブ・ラーニング, 教材, 生成 AI

1. はじめに

2022年11月のOpenAIによるChatGPTの公開^①以降、個人からビジネスまで広く生成AIの利用が始まっている。

情報リテラシー教育の目標が現実社会における情報技術の適正な利用方法の習得であるから、生成AI利用の普及とともに情報リテラシー科目での生成AIの利用指導が必要となった。

東京都が公開している活用事例集^②に見られるように、生成AIの利用方法として会議録やメール文、プレスリリースなどの文書作成業務の省力化に使われる事例がよく知られている。

しかし、生成AIによる文書作成を大学教育における学習活動において利用すると、学生による課題作成において省力化が課題代行（いわゆる代筆）となって、教員が期待する学習効果の向上を妨げかねない。したがって、情報リテラシー科目での生成AIの利用指導は、学生個人の考える機会を支援するようなものでなくてはならない。

そこで、学生個人が文章を考える機会の支援を目標として、2024年度前学期の佐賀大学経済学部の情報リテラシー科目の1コマで、初めて生成AIの利用指導を行った。

本稿は、情報リテラシー科目の紹介の後、生成AIや指導内容の選定、カリキュラムの内容を説明し、最後に今後の改善点をまとめる。

2. 生成AIの利用指導を行った科目について

生成AIの利用指導を行った科目は、佐賀大学経済学部1年生向けの必修科目「情報基礎概論」である。

この科目は同一のカリキュラムの3クラスに合計290名前後の履修生がおり、FOM出版の「情報リテラシー」^③と日本データパシフィックのeラーニングコース「INFOSS情報倫理」、「インフォメーション・スキル入門」を教科書として利用する。

生成AIの利用指導は文書作成の一回分（90分）として5月後半に実施した^④。

表1 生成AIの比較

提供	製品名	料金	会員登録	Web利用	スマホ
OpenAI	ChatGPT 3.5	無料	必要*	可	可
OpenAI	ChatGPT 4	有料	必要	可	可
Microsoft	Copilot	無料	不要	可	可
Google	Gemini	無料	不要	不可**	可

* 2024年6月時点で会員登録不要での利用可能

** 2024年6月時点でWebでの利用可能

3. 生成AIの選定

2024年3月時点で生成AIを選定した。今回の利用指導は生成AIを使う場合の基礎的な情報提供であり、学部教育として継続的に利用させるわけではないため、無料かつ新規に会員登録が不要であることが必須条件であった。また、科目の演習で使用しているワープロソフトMicrosoft Wordとの連携が必要である。

この条件から、この科目で利用する生成AIとしてMicrosoft Copilot（以降、Copilotと記す）を選定した。

4. 利用指導の内容の選定

生成AIの利用の注意点として、ハルシネーションや情報漏洩が広く知られている。利用指導では生成AIを利用する上での一般的な禁止事項や注意点の説明に加えて、学習効果の向上の妨げとなる課題代行の禁止を明記する。

課題代行は、生成AIのビジネス利用における「文書作成業務の省力化」の不適切な利用と言えるが、学生にとって適切な利用方法として、企業訪問における電子メールの文案やエントリーシート記入内容の推敲など、生成AIの文書作成が活用できる場面は多い。そのため、全面的な生成AIの利用を禁止できない。

そこで、大学生として利用する機能を次の3項目に分類して、カリキュラムを作成した。

- 1) 手本に利用
- 2) 文章の変換に利用
- 3) 対話の相手に利用

文書作成業務の省力化の機能は、生成AIの学習データがあらゆるスタイルの文章のお手本となることから説明を始めて、ビジネス・レターなど学生にとって慣れないスタイルの文章の下書き作成として実習する。

翻訳や要約、推敲は元の文章がある場合の使い方なので、文章の変換として実習する。

考えの整理やブレインストーミング、面接練習、語学学習は、対話の相手として実習する。

5. 生成AI利用における留意点

生成AIの文章生成の原理と、形態素解析の失敗や同音異義語などによってハルシネーションが生じる原因を簡単に説明したうえで、禁止事項や注意事項を説明する。

5.1 禁止事項

- ・個人情報や非公開情報の入力禁止

学習データに利用されることと、IT利用の共通事項として履歴の情報漏洩の可能性を想定して、入力内容を選ぶ必要があることを説明する。

5.2 佐賀大学のアカウントで利用する Copilot

- ・ビジネス用アカウントでの保護内容

ビジネス用の生成 AI 設定の例として、学生が利用する大学の Microsoft アカウントでログインした場合には、入力文の学習データが同一テナントの利用者にしか共有されないことと、同一テナントで共有するファイルを検索する機能があることを説明する。

5.3 注意事項

- ・ハルシネーション

生成 AI の回答には妥当性の確認が必要である。

- ・引用ルールが未完成

過度な引用となっていないか、利用先に生成 AI の利用の明記義務や利用禁止などの制約がないか、確認する必要がある。

- ・商標使用の確認

生成 AI 利用に限った話ではないが、商標部分を一般名詞に書き換える必要があるか、確認する必要がある。

5.4 大学での利用の注意事項

- ・課題代行

課題代行（いわゆる代筆）への生成 AI 利用は、試験の代理受験と同様に呼び出されて口頭試問されれば発覚することを説明する。

- ・定型化

生成 AI への指示（プロンプト）が単純だと出力が定型化する。就職活動で似た文章の評価が低い例などをあげて、生成 AI の出力をそのまま利用する問題点を説明する。

6. 手本に利用

6.1 単純なプロンプトの出力例を実習

「遅刻を謝罪するメールを提案してください」を実行させて、情報が不足するプロンプトでは検索と同様な一般例の列挙となることを見せる。

6.2 情報の追加

遅刻の理由やメールの宛先などの情報を対話的に追加することで、実用的な文章が提案させることを実習する。

6.3 プロンプトに盛り込む情報

生成 AI への役割設定、状況や前提条件の明記、出力形式の指定をプロンプトに盛り込むことを説明し、また対話による詳細化を意識させる。

7. 文章の変換に利用

7.1 文章の変換という観点

生成 AI が翻訳や要約、言い換えを強みとすることを説明し、この機能が文章の変換であることを指摘する。

7.2 要約の実習

Copilot は URL を読み込んだ場合に別の情報を検索して付加するため、プロンプト内の文章の要約を実習する。

bing.com の Copilot ノートブックを開き、「次の文章を 400 字で要約してください」の後に Wikipedia の文章を貼り付けて実習する。

講義の直前に ChatGPT 4o の利用が始まったため、ChatGPT 4o が URL や PDF を読めることを紹介する。

7.3 推敲補助の実習

手本としての利用と推敲の実習として、中学校の先生へ大学進学を報告する手紙を教材として実習を行った。

- ・単純な文章プロンプトでの実習
- ・情報を整理したプロンプトでの実習

手紙の文章を提案してください
宛先：〇〇中学校の時の担任の〇〇先生
差出人：202x 年に 3 年〇組を卒業した〇〇
伝えたいこと：4 月に佐賀大学へ進学したこと

- ・対話による情報の追加の実習

「登山のサークルに入り週末のたびに山に登っていることと新しい友達ができただけを追加してください」を例として、各自で追加を試す。

- ・ワードプロセッサに貼り付けて、自分で書き換え
- ・推敲（誤字脱字・敬語チェック）

「次の文章の不備を指摘してください」のあとに上の自分で書き換えた文章を貼り付けて、指摘を受け取る。

- ・手紙の完成

実際には、提出する課題に過度の個人情報に記載されないよう、担任教員に知られたくない情報は架空の名称に書き換えるよう指示を出した。

8. 対話の相手に利用

講義の残り時間の問題と、Copilot で対話開始の再現性が低いと、考えの整理、ブレインストーミング、対話練習の事例を示して、使い方の紹介とした。

9. おわりに

情報リテラシー科目の中で生成 AI の利用の際の留意点の周知と基本的な利用指導を実施した。

学習データを世界中から収集した「手本」として活用する方法を実習する一方で、課題代行などの学習活動の妨げにならないよう注意喚起できた。

一方で、対話の相手としての利用方法は紹介にとどまり、十分な実習を行えなかった。今後の改善点である。

考えの整理やブレインストーミングは、研究を進めるうえで強力なツールとなる。また、生成 AI との対話は就職活動での面接練習として活用できるし、外国語による対話は語学学習のツールとして利用できる。

2, 3 年生の時期に生成 AI の利用指導があるとすれば、対話の相手としての利用方法を具体的に実習する必要があると考えられる。

さらに、生成 AI との対話は安価で高性能な個別教育を実現できる。生成 AI はあらゆる科目の教材を学習済みなので、教科書を利用するタイプの学習では家庭教師としての対話の相手となれる。この分野での発展も利用指導に取り込んでいかななくてはならない。

参考文献

- (1) OpenAI : “Introducing ChatGPT”, <https://openai.com/blog/chatgpt/> (2022).
- (2) 東京都 : “報道発表資料”, <https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/01/30/22.html> (2024).
- (3) 株式会社富士通ラーニングメディア : “情報リテラシー Windows11/Office 2021 対応”, FOM 出版 (2022).
- (4) 安田伸一 : “生成 AI 教材”, https://educsagauniv-my.sharepoint.com/:p/g/personal/yasudas_edu_cc_saga-u_ac_jp/EXIhhEzDb35Fii6zqKSWuucBjo_qu8BXx6W4uEA9QN3Wsw?e=pFlawo (2024).